社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2021年４月１日発行
第102号

民医連

発行　社会医療法人同仁会　同仁会報編集委員会　〒590-0821　堺市堺区大仙西町６丁184-２
TEL 072(244)7260　FAX 072(247)0165　URL http://www.mimihara.or.jp（同仁会HP）

新年度にあたって

職員の健康を守り抜く

改めて宣言

社会医療法人　同仁会
理事長　田端　志郎

友の会のたまりば訪問をする田端理事長

コロナ禍の対応に明け暮れた２０２０年度を終えました。「人権を守る」私たちの事業所におけるコロナ対応は、地域から高い評価を受け、その上で経営も守ることができました。全役職員と健康友の会みみはらの奮闘のたまものです。皆さまに心から「ありがとうございました、そしてご苦労様でした」とお伝えしたいです。コロナ禍はまだまだ続きます。同仁会は、職員の健康を守り抜くことを改めて宣言します。とりわけ心のケアに留意して、職員同士で楽しむことが出来る企画などを織り交ぜながら、この長丁場を乗り切っていきましょう。

２０２１年度は、事業計画として３つのスローガンを掲げます（別枠）。

今年は総選挙―私たちが政治を変える

今年は総選挙が行われます。非正規労働の拡大、ジェンダー不平等、低い年金、外国人の劣悪な労働環境、高い学費負担、医療・介護・福祉の抑制政策など、人々の暮らしはぎりぎりのところに追い込まれていました。コロナ禍はその矛盾を激化させ、目に見える形で私たちに示してくれました。自殺者は急増し、多くの国民が生活苦にあえいでいます。日本政府の医療への財政支援は極めて不十分で、このまま推移すれば、多くの医療機関が経営破綻に追い込まれます。「私たちが政治を変える。そのための一票を！」を合言葉に、より良い政治を求めていきましょう。

私たちの強みは、同仁会、健康友の会みみはら、泉州メディカ、ひまわり会、まちづくりMGP、結いの会ともうずからなる「みみはらグループ」を形成していることです。医療・介護・福祉の総合事業体として、お互いの優位点を活かした事業連携を進めていくことが、コロナ禍での事業継続の鍵になります。「言うは易く行うは難し」ですが、常に「みみはらグループ」を念頭に置き、果敢にチャレンジしましょう。また医療機関としては数少ない「レジリエンス認証※」を耳原総合病院は取得しており、事業継続計画には一日の長があります。コロナ感染症による事業停止を決して起こさず、起こったとしても最小限の影響にとどめる事業継続計画を作り上げましょう。

事業計画のスローガン

①たたかいの年。明らかになったわが国の脆弱な社会保障制度を改善させ、政治に私たちの声を反映させよう。
②一時的な事業停止が起こっても、揺るがないようなコロナ禍事業継続計画を進め、職員を守り抜き、みみはらグループの強みを活かした事業連携で経営を前進させよう。
③「いのちの相談所」の機能を果たし、無料低額診療事業を大きく前進させるとともに、健康友の会みみはらと協力して、「安心して住み続けられるまちづくり」の課題に挑戦しよう。

事業所でのソーシャルワーク機能を高めよう

「非正規労働だが、コロナ禍で雇い止めにあい、医療費が支払えない」、「自営業だが、廃業に追い込まれ、生活のめどが立たない」など、困難事例報告が数多く寄せられています。私たちの無料低額診療事業は、まだまだ知られていません。援助できるのは医療の一部ですが、多くの方に存在をお知らせし、「耳原に相談すれば何らかの支援につなげてくれる」と思っていただけるよう、各事業所でのソーシャルワーク機能を高めましょう。地域コミュニティ形成に大きな役割を果たしている健康友の会みみはらがどれだけ前進できるのかが、私たちの理念を実現する鍵です。今年度は会員数、地域協同基金、「いつでも元気」購読数、全てにわたって目標を達成しましょう。理事長としてその先頭に立って頑張ります。

※レジリエンス認証：レジリエンスとは、自然災害やテロなどが発生し、社会システムや事業の一部の機能が停止しても、全体としての機能を速やかに回復できる強靭さを持つと国に認定される制度

みみはら十人十色

シリーズ
みみはらの人⑭

気がねなく相談できる「場」を作っていきたい

谷　祐佳さん　みみはら在宅クリニック師長

三重県伊賀上野市出身。話しかけやすそうな雰囲気があふれている方です。好きな言葉は、「みんな違ってみんないい」。ストレス解消法は、「スイーツを食べる」「娘と出かける」「ハムスターと遊ぶ」だそうです。

今回の「みみはらの人」は、４月に新しくオープンするみみはら在宅クリニック師長の谷祐佳さんです。２００５年にみみはらに就職しました。

――この職種を選んだきっかけは？

祖母が入院しているとき、看護師さんの様子を見て、憧れていました。自分自身、「手に職をつけたい」とも思いました。人と関わることが好きなことも理由です。

――現在、どんな仕事をしていますか？

地域で在宅医療が必要な方のところへ、医師とうかがい、診療を行っています。

――コロナ禍で仕事の変化や苦労していることは？

訪問した時、マスクやフェイスシールドを装着して患者さんと関わるので、声が聞こえづらくないか、表情が見えづらくないか、気がかりです。

――この仕事をしていて、「良かったと感じること」や「やり甲斐」は？

患者さんや家族さんに、「ありがとう」と言ってもらえた時です。

――あなたが大切にしていることは？

感謝の気持ちを忘れないこと。

――新診療所の紹介と抱負などをどうぞ。

患者さん、友の会の皆さん、地域のみなさんと、コロナ禍で不安な時を一緒に乗り越えていきたいと思っています。新しくできる「みみはら在宅クリニック」では、気がねなく相談できる「場」を作っていきたいですね。